

iDoctors を見つけよう。

頼れるドクター

私たちの街の
ドクター

90名

子宮頸がん検査、大腸内視鏡検査、
生活習慣病、不妊治療、
インプラント治療…etc.

検査・治療レポート

医師会と病院による座談会
厚木市の
「地域医療連携」

家族が要介護になったら？
もしものときの
「在宅介護の手引き」

子どもも大人もおいしく楽しめる
やさしいマクロビレシビ

特集①

気軽に相談できて受診もしやすい

検査・検診に力を入れているクリニック

小田急線

2018-2019版

使い分けよう！
「病院」と「クリニック」
地域の病院レポート

- ・厚木市立病院
- ・湘南厚木病院
- ・社会医療法人社団 三思会
- ・あけぼの病院
- ・日本医科大学多摩永山病院
- ・みなみ野循環器病院
- ・成城リハケア病院
- ・順天堂大学医学部附属 順天堂医院

ドクターがメカニズムを解説！
気になる！
ストレスとの
上手な付き合い方

わたしのまちの
子育て・医療情報
「MY TOWN NEWS」
海老名市長インタビュー ほか

Doctors File

ドクターズ・ファイル

<https://doctorsfile.jp>
ドクターズ・ファイル 特別編集

特集②

女性だからこそ相談できることもある

女性医師のいるクリニック

大腸内視鏡検査

▼ だいちょうやないしきようけんさ ▲

読者レポーター



本多 洋子さん
(60代/主婦)

過去の記憶から、あまり受けたくないイメージです

以前、大腸内視鏡検査を受けたことがあります。事前に下剤を飲むのが大変だったのと、それほど痛くはなかったのですが受診後に体に違和感があり、時間がかかったのもあって疲れてしまいました。その後は異常もないので大腸の検査は敬遠していましたが、検査機器や技術も進んでいると聞いたので、しっかり勉強したいと思います。

START

実際の流れを紹介

STEP 1



まずは診察を受ける

日頃飲んでいる薬、病歴、過去の大腸に関する検査結果などを確認。検査を受けることになったら、検査日を予約する。検査前日は、消化しにくい食べ物を避ける程度で、特別な食事制限はない。

STEP 2



検査前に下剤を飲む

大腸の中を空にするために、前日夜には錠剤を2錠飲み、当日朝に、やや苦みのあるスポーツドリンクのような味の下剤を飲む。検査当日は、起床から検査終了後まで食事はできない。

STEP 3



鎮静剤を注射

鎮静剤の注射を受ける。薬は患者一人ひとりの体調、年齢や病歴に合わせて調整してくれる。鎮静剤により痛みや違和感を感じにくくなり、少しボーッとするような状態になるとのこと。

検査&治療
にまつわる

Q & A

答えてくれたのは
この方！



寒河江 三太郎 院長

Q 検査は何歳くらいから受けたほうがいいですか？

大腸内視鏡検査は、40歳以上になったらどなたにも定期的に受けてほしいですね。ご家族に大腸がんや潰瘍性大腸炎などの病歴がある場合は、35歳くらいで一度検査を受けることをお勧めします。また、年齢にかかわらず便潜血など健康診断で異常があった方は速やかに検査を受けてほしいですし、便秘や下痢、おなかの張りなど、何らかの大腸の症状が気になる場合も一度診察を受け、必要と判断されたら内視鏡検査を受けてください。

Q この検査でどんな病気が発見されますか？

大腸がん、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎、

クローン病、炎症性腸疾患、感染性腸炎、食中毒などの病気や症状を発見することができます。特に大腸内をカメラでくまなく観察するので、大腸がんになる恐れのある大腸ポリープや、ごく初期の大腸がんを発見することができます。大腸ポリープは、内視鏡検査の際に除去できる場合もあります。また、ごく早期のうちに発見できた大腸がんは、ほぼ完治することが期待できます。

Q 検査の際痛みや苦しさ、つらさが気になります。

患者さんの体調に合わせて鎮静剤を用いますので、ウトウトする感じで、人によっては寝てしまうこともあります。検査後、痛みやつらさを感じなかったと言われる方がほとんどです。検査は20分から30分程度で終わりますし、大腸ポリープがあつて切除する場合でも痛みはほぼありません。内視鏡の挿入についても、当院では痛みの出にくい軸保持短縮法という方法で行っていますので、安心して受けていただきたいと思います。

ドクターからのアドバイス

初期の大腸がんはほとんど自覚症状がありませんので、早期発見には定期的な内視鏡検査が欠かせません。つらい、苦しいというイメージを持つ方も多いと思いますが、当院で受けられた方のほとんどは、「痛くなかった」「楽だった」と言われます。大腸の内視鏡検査はつらいものでなくなってきているということをぜひ知っていただきたいと思います。

今回訪れたクリニック

厚木胃腸科医院

小田急線本厚木駅から徒歩20分。バスなら木売場停留所すぐ。半世紀にわたって親しまれてきた、消化器内科と内科のクリニック。2015年から2代目の寒河江三太郎先生が院長職を引き継ぎ、「痛くない、つらくない胃と大腸の内視鏡検査」に尽力。最近は遠方からも患者が訪れるとのこと。在宅治療にも対応し、地域になくてはならないクリニックとなっている。

厚木市妻田南1-16-36
☎046-223-1155



LINK P102

STEP 5



休息を取った後、検査結果を聞く

検査終了後は安静室で1～2時間休んでから、結果を聞く。鎮静剤が効いている間は、足元がふらつくこともあるので、自動車やオートバイの運転は避ける。来院から検査が終わって帰るまでの時間は、およそ2～3時間。

STEP 4



内視鏡を挿入して検査開始

大腸を無理に引き伸ばさないことで痛みの出にくい軸保持短縮法など、いくつかの方法の中からその患者に合わせた挿入方法を医師が選び、行う。検査自体の所要時間は異常がない場合は20分程度、ポリープの切除が必要な場合でも30分程度。

レポートを終えて



内視鏡検査に使うスコープを実際に見せてもらって、とても細いことにびっくりしました。これならば痛くないだろうなと素直に思いました。検査後のアンケート調査でも、痛くなかったとの答えがほとんどだそうです。その結果にも納得です。鎮静剤でウトウトしていれば、恥ずかしさもあまり感じませんよね。これからは定期的に受けたいと思います。

クリニックで 受けられる 検査・検診

痛みや違和感を感じにくいよう 配慮を徹底した内視鏡検査

初期の胃がんは、粘膜のごく微妙な色調の変化や凹凸などから見つけなければならぬため、一般的なエックス線検査よりも胃内視鏡検査（胃カメラ）のほうが発見しやすいとされている。同院の内視鏡検査は患者の負担軽減のため、5mmの細径スコープを使用。経口だが喉に麻酔スプレーをするため、痛みも違和感も感じない人がほとんどだという。「それでも心配という方は、静脈麻酔でウトウトした状態で受けていただけます」と院長。検査時間は約5分で、実際「いつの間にか終わっていた」という人も多いほど痛みや苦しさを感じにくいそう。胃内視鏡検査では併せて喉や食道がんのチェックもできるため、院長は定期的な受診を呼びかける。



痛みに配慮した内視鏡検査で早期発見をめざす同院



1 内視鏡検査後に休むことができる安静室も完備 2 全面バリアフリーの待合スペースは明るく、開放的 3 入り口と診察室に水槽が設置され、リラックスできる空間に 4 エコー検査は専門家が担当する



を実現すべく、院内を全面バリアフリー化し、入り口と診察室には「患者さんがリラックスできるような」と水槽を設置した。また待ち時間を減らすために予約制を導入し、さらなる利便性向上を図っている。

は、厚木の胃がんや大腸がんによる死亡者数をゼロにすること。痛みを抑えた内視鏡検査を広く知ってもらうため、手作りのチラシを作成し、ホームページ上では検査の手順をわかりやすく解説した漫画を公開している。医師の独り善がりにならないようにと、検査を

受けた患者へのアンケート調査も継続して行っている。「アンケートではほぼ『痛くない』という回答を頂き、安心していただけます。定期的な検査ががん撲滅への近道。検査の良いイメージが広がるように尽力します」



検査・検診に
力を入れているクリニック

厚木胃腸科医院

内視鏡内科／消化器内科
胃腸内科／内科
内視鏡検査

寒河江 三太郎 院長

Santaro Sagae

2007年北里大学医学部を卒業。平塚市民病院外科、慶應義塾大学病院一般・消化器外科などで研鑽を積み、2015年に父の後を継いで2代目院長へ就任した。日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医、日本外科学会認定外科専門医。日本医師会認定産業医。剣道で培った集中力を内視鏡検査で発揮している。

内視鏡検査の受診率アップへ向け 痛みの緩和や周知活動に取り組む

妻田の住宅地に立つ、レンガの深い色合いが目を引く建物は、創業から50年の歴史を持つ『厚木胃腸科医院』。院内にはリフォームして間もない清潔感ある空間が広がる。温もりを感じる待合室や診察室は、朗らかな寒河江三太郎院長の手柄を表しているようだ。

寒河江院長が、父である先代院長の寒河江朋男先生から同院を引き継いだのは約3年前。それまでは大学や基幹病院で消化器疾患の診療に携わってきた。勤務医時代に痛感したのは、内視鏡検査の重要性。胃がんや大腸がんが進行してから見つかる患者の多くが、痛い思いをしてまで検査を受けたいなかったと内視鏡検査をしていなかったのだという。

「検査をしていれば、がんを早期に発見できたケースも少なくありませんでした。そこで痛くない検査ができれば、皆さんが定期的に受診してくれるのだと思います、他院で内視鏡の経験を積んだ後、父の医院を引き継ぎました」

大学病院からも週に2回、内視鏡のスペシャリストを招いている。寒河江院長の取り組みは実を結び、今では内視鏡検査と大腸内視鏡検査を、平成29年1月からの1年間で3400例以上実施。近隣はもちろん、平塚や座間から足を運ぶ患者もいるという。

「当院なら前回の検査時と同じ医師が結果を比較しながら詳しく経過を観察できます。専門性とこまやかさ、両面を備えている強みを生かしたいですね」

父に学んだ診療姿勢を大切に患者サービスの向上を図り遠隔診療も新たにスタート

父の朋男先生は今も在宅医療に携わっており、地域の患者に寄り添う姿は寒河江院長の手本だ。「患者さんの話に根気よく耳を傾ける父の姿勢は、努力して継承しているつもりです。症状や治療をわかってもらうことが大切ですから、できるだけゆっくり、平易な言葉で話すよう心がけています」

患者への気遣いはそれだけではない。設備面でもより快適な環境

みんなの本音を
知りたい
来院者の声

とても話しやすく気さくな先生で、胃腸のことや体の不調などを相談しやすいです。また病気や検査について、オリジナルの資料をいろいろ作られているのも助かります。高齢の家族に説明するのに役立っています。(40代/女性) 子どもの頃から、胃腸の病気の診療や検査でお世話になっています。三太郎先生に勧められて大腸の検査も受け、異常がなくて安心しました。たまたま先代の院長先生の元氣な顔を見られるのもうれしいですね。私も見習って頑張ろうと思います。(60代/男性)

Data



Tel 046-223-1155
Add 厚木市妻田南1-16-36
Parking 有
Close 火/日/祝

Map P205 B-2 Link P026

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	●	—	●	●	●	●	—	—
15:00~17:00	○	—	○	●	●	△	—	—

※○15:00~19:00
※△第2・4土曜のみ





地域により多くの 「安心」を届けるために、 私たちができること。

2008年、『頼れるドクター』は東京・神奈川の田園都市エリアに暮らす方々に向けた医療マガジンとして誕生しました。地域の人たちが自身や家族の健康を気軽に相談できる「かかりつけ医」に出会えるよう、その町の医療を担うドクターたちの理念や治療方針、人柄まで伝わるような雑誌にしたい——。私たちのそんな想いは田園都市エリア以外の地域の方やドクターにも届き、「こっちのエリアに雑誌はないの?」「うちのクリニックを取材してほしい」と予想以上の反響を呼びました。

あれから早10年。『頼れるドクター』は名古屋・大阪を含め、年間15エリアもの地域版を制作するまでに成長しました。現在まで変わらず心がけているのは、「読者が必要とする情報」と「ドクターが伝えたい情報」をしっかりと届けること。そのために私たちは「対面での取材」にこだわっています。電話やメールだけではわからない、院内の雰囲気やドクターの人柄にふれ、想いを真正面から受け止める。一度取材に訪れたクリニックにも定期的に伺い、正確な情報をキャッチし続ける。それがメディアの信頼性を高め、読者や医療関係者の方々からの評価につながると信じています。

クリニック、病院、医師会、自治体と、さまざまな切り口で行う取材は時間や手間もかかり、時には何度も取材先を足運ぶことがあります。そうした地道な努力と、忙しい中時間をつくってくださる方々のおかげで、これまで1万人を超えるドクターから話を伺うことができました。

10周年ではありますが『頼れるドクター』の全国展開は始まったばかり。医療に携わるさまざまな方とさらに連携し、読者の皆さんの安心につながる情報を一つでも多く提供できるよう、私たちは今日も取材へと向かいます。

これからも、『頼れるドクター』をよろしく願っています。



おかげさまで
『頼れるドクター』
シリーズは
創刊10周年



10年間で実際に取材したドクターの人数

12,337名。

※『頼れるドクター』と『ドクターズ・ファイル』で取材したドクターの延べ人数(2017年5月31日現在)

「これからの『頼れるドクター』にご期待ください」

2017

・名古屋版・大阪版 創刊
・『頼れるドクター』シリーズ 創刊10周年



2016

・小田急線版、千葉版、埼玉版 創刊
・『ドクターズ・ファイル』東海版カットオーバー
・医療連携システム『D-Search』サービススタート
・病院検索サイト「ホスピタルズ・ファイル」カットオーバー
・関東／名古屋ローカルのテレビ番組提供CMを放送

2015

・武蔵野・多摩・八王子版、台東・墨田・荒川・足立・葛飾版 創刊
・電車内ステッカー、新聞・雑誌広告などのプロモーション強化



2014

・千代田・中央・江東版、豊島・練馬・板橋版、品川・大田・川崎版 創刊
・医療関係者向けメディア『患者ニーズ研究所』創刊



2013

・港・渋谷・目黒版、中野・杉並・吉祥寺版 創刊
・総合病院紹介記事掲載スタート



2012

・新宿・渋谷版、横浜版 創刊



2011

・東横線版 創刊



2010

・世田谷版 創刊



2009

・『ドクターズ・ファイル』(Webメディア) 関東エリア展開スタート



2008

・『頼れるドクター』田園都市版 創刊



『頼れるドクター』
10年のあゆみ

厚木胃腸科医院

〒 243-0814 神奈川県厚木市妻田南 1-16-36

TEL : 046-223-1155